

夫の転勤に同行して引越した妻は、仕事を通じて人間関係を作れる夫に比べ、転勤先でなかなか知り合えない。寂しい思いをさせないようにと、女性グループや自治体などが、転勤族の妻同士の交流会を開催する動きが広がっている。

(吉田尚大)

群馬県高崎市の子育てサロン「タカサキチ」で7月中旬、女性7人が地元の名産のコンニャク作りを楽しんでいた。女性らは、転勤族の夫を持つ妻の交流グループ「転勤族協会(TKT48)」の支部「チーム群馬」の会員だ。

同協会は2014年に設立。海外を含めて17か所に支部があり、各支部がイベントやランチ会などで交流を図っている。協会のフェイスブックを通して加入でき、約900人の会員がいる。

チーム群馬のイベントに参加した山本利実さん(34)は、夫の転勤に伴い、4月に岡山県から越してきた。「転勤族の妻という共通点があるから、すぐに溶け込めた」と笑顔を見せる。

長崎県出身で、結婚後に初めて長崎を離れた山本さんは、岡山在住中に協会の存在を知り、会員となって交流を楽しんだという。このようなグループがなければ、転勤族の妻は友達ができない」と訴える。



知り合いできない……不安解消

転勤族の妻らが交流

協会を設立したのは、自らも転勤族の妻の奥田美和さん(41)。「転勤先に知り合いがないために、『転勤うつ』になる女性もいる」と語る。

引越してきた街の生活を楽しくもらおうと、行政も転勤族の妻同士の交流に取り組んでいる。横浜市都筑区は15年4月

から、「転勤妻のおしゃべりサロン」を毎月第3金曜日に開いている。同区は東海道新幹線新横浜駅に近く、西日本方面への移動のしやすさから転勤族が多く住むという。7月のサロンには10人が参加。「子どもを連れて行けるプールはどこですか?」と情報交換などをした。

長男(1)を連れて参加した主婦(37)は昨年4月、知り合いがない同区に、大阪府から引越してきた。長男と部屋で2人きりという時間が多く、残業が多い夫ともゆっくり話す時間が取れない。「サロンは昼間に外出するきっかけになるし、子育てのことを忘れて、転勤族の妻ならではの苦労話や情報交換もできる。新鮮で楽しい」と喜ぶ。

秋田市でも「転勤奥様教室」を開催し、方言や郷土料理などを教えている。教室で街を案内してくれた観光ガイドのボランティアに参加する女性もいるなど、交流の輪が広がっている。ただ、転勤族の妻の中には、夫の転勤のために仕事を辞めざるを得なかった女性もいる。女性の働き方に詳しい、日本女子大学准教授の永井暁子さん(家族社会学)は「働く女性の増加に伴い、夫の転勤が理由で退職した妻の間に、やりがいやキャリアの喪失感を抱いたり、自分の将来に不安を感じたりする人が目立つ」と指摘する。



コンニャクを作りながら、群馬の魅力などについて語り合う「チーム群馬」の女性たち(群馬県高崎市)



子連れでも参加できる、横浜市都筑区の「転勤妻のおしゃべりサロン」

■転勤族の妻が居場所を作る方法

- ・地元の子育てサークルに入ったり、子ども連れで遊びに行ける「地域子育て支援拠点」を利用したりする
- ・PTAの役員を引き受ける
- ・自治体の広報誌などで、趣味やボランティアのサークルを探す
- ・市民活動支援センターや男女共同参画センターの講座、イベントに参加する
- ・地元の人と交流できるコミュニティスペースを訪ねる
- ・人材派遣会社に登録し、地元の企業に派遣してもらう(奥田さんの話に基づいて作成)

「転勤族の妻が活発に街に出るようになれば、地元経済や地域活動の刺激になるし、その後の転勤先で『あの街は良かった』と宣伝もしてくれる」と永井さん。「女性はインターネットを通して人とつながることが好きで、自治体が運営するサイトの方が安心できるといふ声も強い。予算を使わず、ネット上でも地元の転勤族の妻が交流できるようにしてほしい」と要望する。

ポケモンといっしょにおぼえよう! vol. 423

英語ひとと

SEASON 2

I know how you feel.

アイノウハウユーフィール

その気持ちわかるよ

悲しいときやつらいときは、家族や友達に気持ちを理解してもらえたらうれしいわ。レディバ同士のなら、出して

*ポケモンと英語を勉強し